

## 1. はじめに

英語 it-cleft 分裂文は焦点句を際立たせる文体上の一つの方略であり、焦点句形成には談話 (discourse) の要因が関係する。(1a, b) に見られるように、否定辞を伴うと副詞句は it-cleft 分裂文の焦点位置に生起しやすくなり、また (2 a, b) に見られるように、only などの強調語句を加えると、副詞句は焦点位置に現れやすい。

- (1) a. It isn't often they're as late as this. (Huddleston and Pullum 2002: 1419)  
 b. It wasn't willingly that he agreed to accompany the police to the station. (Delahunty 1984: 79)  
 (2) a. It was only reluctantly that he agreed to swim at all. (Pinkham and Hankamer 1975: 433)  
 b. It is only rarely that the students are believed to have handed in their assignments on time. (Chomsky 1977: 96)

it-cleft 分裂文の焦点句形成には、Chafe (1970) 等で分析されるいわゆる談話に絡む情報理論の特性も関与する。(3) は旧情報である二重目的語構文の間接目的語を焦点位置に置いているため非文であるのに対し、(4) は新情報である与格構文の to DP の DP が焦点位置に生起しているため文法的であると考えられる。

- (3) ?\*It was Bill<sub>i</sub> that I gave *t<sub>i</sub>* a book. (4) It was Bill<sub>i</sub> that I gave the book to *t<sub>i</sub>*. (Delahunty 1981: 118)

また (5a, b) のように否定の代名詞が焦点句に生起しないのも、事物の存在を示唆する前提節と焦点位置の否定辞が相容れないためであると分析すれば、談話面からの説明が可能である。

- (5) a. \*It was no one who came in. b. \*It was not anything that he told me. (Declerck 1988: 86)

しかし談話上焦点が当たるものであれば焦点位置に生起できるというわけではなく、焦点句形成には統語上の制約もある。例えば形容詞句や動詞句は it-cleft 分裂文の焦点位置に生起できないが、これは it-cleft 分裂文の焦点位置は [-V] の素性を持たねばならないという統語上の制約によるものである (Jackendoff 1977: 31)。

- (6) a. \*It is easy to please that John is. (Gundel 1977: 554) b. \*It is insane that he drove us all. (Emonds 1976: 133)  
 (7) a. \*It is blow up some buildings that you should do. (Emonds 1976: 133)  
 b. \*It was to get a more appley green that I'd prefer. (Delin 1989: 75)

このように、it-cleft 分裂文の焦点句形成には談話的側面が絡む一方で、統語的側面も深く関わっている。

## 2. 英語 it-cleft 分裂文の統語特性

英語 it-cleft 分裂文の派生に統語的移動が関与していることが、以下の例からも分かる。

- (8) \*It is this hat<sub>i</sub> that I believe the claim that he was wearing *t<sub>i</sub>*. (Ross 1967: 393)  
 (9) a. \*It is this book<sub>i</sub> that I wonder who read *t<sub>i</sub>*. (Chomsky 1977: 95)  
 b. ?\*[Which drink]<sub>i</sub> was it Boris who bought *t<sub>i</sub>*? (Reeve 2012: 27)  
 (10) ?? It was every boy<sub>i</sub>'s mother that he<sub>i</sub> saw *t<sub>i</sub>* first. (Percus 1997: 344)

it-cleft 分裂文の焦点句形成が複合名詞句制約に従うこと(8)、wh 島制約に従うこと(9)、交差現象を見せること(10)から、it-cleft 分裂文には移動に絡む統語特性が含まれていることが分かる。これらのことから、焦点句を際立たせる文体上の方略である it-cleft 分裂文については、談話的側面ではなく、統語的側面から分析する必要があると分析できる。

## 3. 凍結原理—焦点句からの抜き出しに関する DP/PP の非対称性

一般的に統語派生の中で、移動した要素が、移動が駆動されるための条件を満たしたときは、さらなる移動やあるいはその要素からの句の抜き出しができない。これは (11) に示す「凍結原理」(Wexler and Culicover 1980) によるものである。

### (11) 凍結原理 (Freezing Principle)

句構造標識における節点 A が凍結すると、A に支配された節点には変形規則を適用できない。

(Wexler and Culicover 1980: 119)

この凍結原理をミニマリスト・プログラムの枠組みで示したものが、Rizzi (2006, 2010) の基準凍結である。

### (12) 基準凍結 (Criterial Freezing)

基準を満たした句はその位置で凍結される。

(Rizzi 2006: 112)

次の (13a) は話題化により TP 付加位置に移動した DP 内部からさらに話題化を適用しているため、(11) の凍結原理および (12) の基準凍結に違反する (以下、まとめて「凍結原理」と記す)。(13b) は話題化した DP 内

部より wh 句が抽出されているため、凍結原理に抵触し、非文と判断できる。

(13) a. ?? [Vowel harmony]<sub>j</sub>, I think that [TP [DP articles about  $t_j$ ]<sub>i</sub>, [TP you should read  $t_i$  carefully]].

b. ?? Who<sub>j</sub> do you think that [pictures of  $t_j$ ]<sub>i</sub>, John wanted  $t_i$ . (Lasnik and Saito 1992: 101)

興味深いことに、it-cleft 分裂文はこの凍結原理に関して、焦点句の範疇によって異なる統語的振る舞いを見せる。(14a-c) は焦点句が前置詞句 PP の場合は凍結原理に従い、焦点句移動した要素から wh 句の抜き出しが適用できないことを示しており、(15a-d) は焦点句が名詞句 DP の場合は凍結原理に従わず、移動した焦点要素から、さらに wh 抽出が許されることを示している。

(14) a. \*Which books<sub>j</sub> is it [on the covers of  $t_j$ ]<sub>i</sub> that we've got to paste these labels  $t_i$ ?

b. \*Who<sub>j</sub> was it [with a picture of  $t_j$ ]<sub>i</sub> that he decorated his door  $t_i$ ?

c. \*What<sub>j</sub> was it [about a review of  $t_j$ ]<sub>i</sub> that they had that argument  $t_i$ ? (Pinkham and Hankamer 1975: 440)

(15) a. ? Which books<sub>j</sub> is it [the covers of  $t_j$ ]<sub>i</sub> that we've got to paste these labels on  $t_i$ ?

b. ? Who<sub>j</sub> was it [a picture of  $t_j$ ]<sub>i</sub> that he decorated his door with  $t_i$ ?

c. ? What<sub>j</sub> was it [a review of  $t_j$ ]<sub>i</sub> that they had that argument about  $t_i$ ? (op. cit., p. 440)

d. ? What<sub>j</sub> was it [an increase in  $t_j$ ]<sub>i</sub> that the parliament discussed  $t_i$ ? (Hartmann 2018: 199)

興味深いことに、この凍結原理に関する DP/PP の文法差は分裂文のみに見られるものであり、同じ非 A 位置への統語移動である wh 移動の場合は、wh 移動した PP から wh 句を部分抽出した (16a) も、wh 移動した DP から wh 句を部分抽出した (16b) も、どちらも非文と判断される。

(16) a. \*/?? [Whose mouth]<sub>j</sub> do you wonder [[PP how far into  $t_j$ ]<sub>i</sub> the dentist stuck his finger  $t_i$ ]?

b. \*/?? [Whose book]<sub>j</sub> do you wonder [[DP how many reviews of  $t_j$ ]<sub>i</sub> John read  $t_i$ ]? (Corver 2017: 1720)

このことから、it-cleft 分裂文に関する焦点要素からの wh 句部分抽出に関して、焦点句 PP と焦点句 DP の間で凍結原理の駆動に明確な差が見られるのは、it-cleft 分裂文に限った特異な統語現象であると言える。

#### 4. it-cleft 分裂文における主要部上昇移動

it-cleft 分裂文の焦点句における凍結原理の駆動の有無については、DP 焦点句と PP 焦点句では派生構造が異なるためであると分析する。DP を焦点とする it-cleft は Kayne (1994) 等が提案する主要部上昇移動、すなわち代入構造 (substitution structure) により派生されるのに対し、PP を焦点とする it-cleft は付加構造 (adjunction structure) により派生されると分析する。制限関係節と同じ主要部上昇 (promotion) を含む DP 分裂文は付加構造を構築しないため、素性の照合が行われておらず、その結果焦点句 DP からの wh 句抽出が許されると提案する。一方、PP 分裂文は代入構造を構築できないため、C の <+FOC> 素性により CP 指定部に牽引された PP が、その上に付加する焦点句と意味的同定 (matching) を行い、その素性照合の結果、焦点句 PP の中から wh 句の部分抽出が許されないと提案する。紙幅の都合上、派生の細かい構造および本分析に至る詳細を説明できないが、it-cleft 分裂文において DP 焦点句が代入構造を構築し、PP 焦点句が付加構造を構築する理論的根拠は、DP 分裂文と制限関係節の統語的類似性が見られること、および DP を焦点に持つ it-cleft 分裂文には、制限関係節同様、焦点要素の再構築・連結性 (reconstruction/connectivity) が観察されることから支持されると主張する (本主張の一部は、Kitao 2021 を参照されたい)。

#### 5. 結語

本稿では、it-cleft 分裂文には統語的諸特性が深く関わっており、談話的側面ではなく統語的側面から分析する必要があること、および凍結原理の観点から it-cleft 分裂文の統語特性を精査すると、DP 焦点句と PP 焦点句の it-cleft 分裂文はそれぞれ異なる派生構造を持ち、DP 分裂文は主要部上昇移動を軸とする代入構造を構築するのに対し、PP 分裂文は素性照合・意味的同定による付加構造を構築することを提案した。

※ 本研究は、JSPS 科研費 JP18K00553 の助成を受けている。

参考文献 (一部) Chafe, W. (1970) *Meaning and the Structure of Language*, U. of Chicago Press./ Corver, N. (2017) "Freezing Effects," *The Wiley Blackwell Companion to Syntax* (2nd ed.), ed. M. Everaert and H.C. van Riemsdijk, 1711-1743, Wiley-Blackwell./ Delahunty, G. (1984) "The Analysis of English Cleft Sentences," *Linguistic Analysis* 13, 63-113./ Hartmann, J. (2018) "Freezing in it-clefts: Movement and Focus," *Freezing: Theoretical Approaches and Empirical Domains*, ed. J. Hartmann et al., 195-224, De Gruyter./ Kitao, Y. (2021) "Freezing Principle in English Cleft Sentences," *JELS* 38, 23-29./ Pinkham, J. and J. Hankamer (1975) "Deep and Shallow Clefts," *CLS* 11, 429-450./ Rizzi, L. (2006) "On the Form of Chains: Critical Positions and ECP Effects," *Wh-Movement: Moving On*, ed. L. Cheng & N. Covert, 97-133, MIT Press./ Wexler, K. and P. Culicover (1980) *Formal Principles of Language Acquisition*, MIT Press.